部会長挨拶

後藤　邦彰
（岡山大学）

2018 年度と 2019 年度の２年間、部会長を仰せつかりました。ご存知のように、粒子・流体プロセス部会は、所属正会員数でみると化学工学会で最大の部会となっています。このため学会内で部会としての存在感を期待されているように思います。一方で、当部会は5つの分科会、熱物質流体工学分科会、ミキシング技術分科会、気泡・液滴・微粒子分散工学分科会、流動層分科会、粉体プロセス分科会の活動が核となっています。これらは、それぞれ独自の設立経緯があり、学会が部会制に移行する前から続くシンポジウムやセミナーを開催している分科会もあります。この学会から期待される部会としての活動と、各分科会の活発な活動の維持・発展のバランスをどうとるかが、歴代部会長が苦心されていた点であったように思います。

その歴代部会長のご尽力の結果が、現在の部会としての活動である「部会セミナー」「部会賞」「若手女性育成プロジェクト“若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会”」となっています。部会長をお引き受けする以前より部会の運営に携わり、部会の活動が現在の形になる経緯を見てまいりましたので、私が担当いたします２年間は、これらの活動をいかにして永続的に発展できる体制とできるかを考えてみたいと思います。

前述のように、当部会は、分科会の活動が核となっています。そのため部会の発展は、各分科会活動が活発になることだと思います。分科会活動が活発となり、発展するためには、各分科会の代表・副代表の皆様にご協力をいただいている部会の運営を負担の小さいものにし、分科会の活動に専念いただくことが重要であると考えています。とはいえ、すぐに部会の運営体制を変えることは難しいので、まずは部会組織と活動が、ご協力いただく皆様に無理を強いることないよう続いていく方法を考えたいと思います。

この２年間、部会の運営だけでなく、今後の永続的な発展のための議論にもご協力をいただけますようお願いいたします。